

強い風や大雨などによる災害

風水害に備える

強い風や大雨などによっておこる災害が風水害です。

風水害には、洪水、土砂災害、竜巻、突風、高潮などがあります。

津山市では平成10年の台風10号、平成16年の台風23号で大きな被害をうけています。



1

洪水

台風などの大雨によって河川があふれ、堤防をこえたりした水が沿岸に被害を与えるのが、洪水です。また、局地的な集中豪雨にも注意が必要です。



1時間雨量(ミリ)	予報用語	想定される被害
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る。雨の音で話し声がよく聞き取れない。
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り。側溝や小川があふれ、小さながけ崩れが発生。
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したような雨。がけ崩れが起こりやすい。
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降り、地下に水が流れ込む。土石流が起こりやすい。
80以上～	猛烈な雨	大規模な災害が発生する恐れが強い。厳重な警戒が必要。

(気象庁による)



地域によって異なりますが、1時間に20ミリ以上、また降り始めから100ミリ以上の雨が続いたら災害の危険性が高くなります。浸水対策を含め、十分な警戒が必要です。

2

土砂災害

土砂災害には、主としてがけ崩れ、地すべり、土石流があります。市内には土砂災害危険箇所が約580箇所あります。



土砂災害はこんな“前ぶれ”があるとされています。

がけ崩れの前ぶれ

- がけからの水がにごる
- がけにひびわれが入る
- 小石がパラパラと落ちてくる

- 地面にひび割れができる
- 沢や井戸の水がにごる
- 斜面から水がふき出す

地すべりの前ぶれ

土石流の前ぶれ

- 山鳴りがする
- 雨が降りつついているのに川の水位が下がる
- 川の流れがにごったり流木がまざり始める

3

強風

勝北地域では「広戸風」という特有の強風が発生します。台風の進路等により注意が必要です。



異変を感じたら、早めの自主避難を心がけましょう。

風水害は、地震などの予想がむずかしい災害とちがい、事前にしっかりとした情報収集ができていれば、余裕をもって行動することができます。



まずは天気予報を！

台風ばかりではなく、季節の変わり目には、大気の状態が不安定になりやすく、低気圧が台風なみに発達することがある。こういうときも油断しないで、天気予報をしっかりと確認する習慣をつけよう。

また、その地域だけにおこる局地的な大雨などもあるので、注意しよう。

危険な行動はしない！

台風が接近しているときに屋根や雨どいを修理するのは非常に危険です。絶対にやめよう！



近所の危険箇所をチェック！

「山の斜面に家がある」「近くにがけがある」など、家のまわりにどんな危険があるのか、ふだんからよく観察しておくことも大切。地域の危険な場所をしめした「防災マップ」「ハザードマップ」の情報にも気をつけよう。

家族と一緒に
チェックしよう！

☐ 側溝のごみや土砂は取り除いているか。

☐ 瓦、とい、アンテナなどしっかり固定されているか。

☐ 懐中電灯や乾電池・ラジオがあるか。

☐ 浸水の恐れがあれば、生活用品を高い場所へ。

～53年ぶりの大災害～

1998年・台風10号による水害

1998年10月17日夜から18日の早朝、津山地方を台風10号が直撃、1945年9月の枕崎台風以来53年ぶりの大災害となりました。津山市内は床上、床下浸水や道路、橋の崩壊など市内各地に台風被害が広がり、浸水家屋は全世帯の約1割近くにものぼりました。市内の地盤が低いところが軒並み床上浸水で、商店街は10店に1店が災害にあったことになり、被害総額は37億円に達しました。

この台風では、津山から吉井川に流された子牛が牛窓沖の黄島で生きて発見され、のちに「元気くん」と名付けられ、全国的なニュースになりました。

